

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：ぶどうの実第2さぎぬま園	種別：認可保育所
代表者氏名：堀 初恵	定員（利用人数）：60（59）名
所在地：〒216-0004 川崎市宮前区鷺沼2-6-5	
TEL：044-860-3315	ホームページ： https://budou-ki.co.jp/index.html
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2018年04月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 ぶどうの木	
職員数	常勤職員：18 名 非常勤職員：10 名
専門職員	（専門職の名称）： 名
	保育士：22名 看護師：1名
	管理栄養士：1名 栄養士：1名
	調理師：2名
施設・設備 の概要	（居室数）
	（設備等）
	居室：0.1歳児室 設備：調理室
	居室：2.3.4.5歳児室 設備：調乳室
	設備：ほふく室
	設備：事務室兼医務室
	設備：トイレ
	設備：園庭

③理念・基本方針

<理念>

『シアワセな未来を創るひとを育てる』

・ひとが「シアワセ」であるとは、ひととひとのつながりや広がりがうまくいくことを基盤にします。だとすれば、「シアワセな未来を創る”ひと”を育てるとは、ひととひとが豊かにつながり合うという肥沃な土壌があってこそ、一人ひとりが大切にされ、成長の根を育み、希望の種を宿すことが可能になるのです。こうした土壌の中から、子どもたちは、やがて自ら希望を切り拓き、ひとと共生し、社会に貢献する”ひと”として、芽吹いていくのだと私たちは信じています。『シアワセな未来を創るひとを育てる』ことこそがぶどうの木のコアパーパス（社会的存在意義）だと考えています。

育つ・育てる・育ちあう保育の実践をめざします

子ども自身がよりよく生きようとする意志を持つ主体的な《育つ》存在であることを大切に、ゆるぎない愛情と責任感のある養育者として《育てる》の実践を展開し、子ども同士・スタッフと親・親同士が支え合い、助け合って《育ちあい》の関わり合いを大切にする保育を目指します。

＜保育目標＞

- 一人ひとりを大切にする子ども主体の保育

＜基本方針＞

- 一人ひとりを大切にする子ども主体の保育を実践するため私たちは3つの基本姿勢を大切に責任感のある保育者を目指します。

1. 勇気づけの保育

いきいきとした肯定的で効果的なコミュニケーションを通して、子どもとの信頼関係を築きながら、建設的な見方で子どもの長所や能力に注目し、ひとの役に立っていることを感じさせていきます。そして、結果よりプロセスと努力を認めて、失敗を恐れずに前向きにチャレンジするやる気を引き出します。そして、気さくで、ほかの人に関心や思いやりを示し、生き方が積極的で、人生の可能性に肯定的で、しかも熱意と自信に満ちた人間として、活気に満ち充実した人生を築いていける基になる成長の根っこをはぐくむために、責任感ある保育者として『勇気づけの保育』をしていきます。

2. 裁かない保育

子どもの現象的な好ましくない言動に振り回されて、困った子、悪い子という良い悪いという二者択一的な観点で子どもを捉えません。子どもをありのままに肯定された存在として受け入れ、行動の裏にある肯定的な意図や動機を理解しながら、統合的な観点で関わります。そのために、共感的に子どもの立場を理解できる感受性を持った責任感ある保育者として、子どもの人格と行為を分け、決め付け・押し付けをして子どもを『裁かない保育』をしていきます。

3. 見守る保育

やるべきことが決められ、指示されるだけの生活は、子どもの意欲や自信を奪い、失敗を恐れ、依存心の強い子どもになっていきます。そこで、子どもたちの育つ力を信頼し引き出すために、指示・命令・禁止・許可をできるだけ避け、子ども自身の失敗や成功の体験を通して、子どもたち自身が感じ取り・気づき・考えることや友達とのトラブルや課題を子どもたちが自ら解決し行動する・伝え合う・協力することを援助します。そのために、観察し傾聴し誘導し引き下がる柔軟性にあふれた責任感ある保育者として子どもを『見守る保育』をしていきます。

④施設・事業所の特徴的な取組

＜ぶどうの実第2さぎぬま園の特徴的な取組＞

1. 「おもしろくなきゃぶどうじゃない！」常に子どもを真ん中にし、子ども主体で保育を創る時、大人主体が問われます。慣例や規則ばかりに縛られることなく、子どもの「今」そして「未来」を見据えて子ども一人ひとりの輝く瞬間を大切にしたいと考えています。そのためには、子どもだけでなく大人も一緒におもしろがれるそんな保育を実践したいと願っています
2. 「子どもの豊かなマインドを育む多彩な保育カリキュラム」法人6園の年長児と学童の子どもが中心となって自分の「したい」を仕事にしてまちづくりプロジェクトを行っています。
3. 社会に貢献できるひとを育てるという想いから子どもたち自身が海外に住む里子の支

援や今自分たちに出来るSDGsの活動に参画し継続的に取り組んでいます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年06月03日（契約日） ～ 2024年11月11日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（年度）

⑥総評

【ぶどうの実第2さぎぬま園の概要】

●ぶどうの実第2さぎぬま園（以下、当園という。）は、株式会社ぶどうの木（以下、法人という。）の運営です。法人は、川崎市で6園の認可保育園と学童保育を運営し、理念『シアワセな未来を創るひとを育てる』に基づき、子どもたち一人ひとりの成長を丁寧に育む保育を提供しています。大きな粒のぶどうの実がたわわになったぶどうの房が、大地に強く根を張ったぶどうの木に支えられるように、それぞれの子どもの個別ニーズと家庭のニーズにきめ細かく対応し、柔軟な保育サービスを提供すると共に、地域に根差したトータルな子育て支援を目指しています。

●当園は、東急田園都市線「鷺沼駅」から徒歩11分程の閑静な住宅地の中に位置しています。道路を挟んで法人系列園の「鷺沼園」があり、行事や普段の保育の中でも交流する環境が整えられています。園舎は、鉄骨造り2階建て、木の温もりが感じられ、日差しが差し込み、明るい空間が広がっています。園庭や屋上園庭も有しています。

●当園の定員は60名、0歳～5歳児までの保育を実施し、現在59名の園児が在園しています。保育目標「一人ひとりを大切に子ども主体の保育」を掲げ、年齢に関係なく好きなこと・得意なことが楽しめるように環境設定を工夫しています。職員は、「みんな違ってみんないい」をモットーに、子どものありのままの姿を大切にし、法人の異年齢保育「ごちゃドバ（楽しい事がドバドバ出てくる）」を実践し、「毎日楽しくてしかたない！」と子どもたちが輝ける保育を目指し、園長をはじめ、職員の笑顔が輝く保育園です。

◇特長や今後期待される点

1. 【子ども主体の保育】

当園では、「子どもが中心」を視点に、毎日の保育活動を実践しています。子どもの成長段階に合わせた年齢区分を設定（種の時期：0歳～1歳半 芽の時期：1歳半～3歳 苗の時期：3歳～6歳）し、成長の根を育むために4つのポイント「安心感」・「達成感」・「自尊心」・「共感」を大切にしたい保育実践です。低年齢児期は、安心して生活し、楽しく過ごせるよう、保育士は子どもの仕草や表情をキャッチし、一人ひとりにやさしく丁寧に関わっています。幼児期では、年齢別保育と異年齢保育「ごちゃドバ」を組み合わせたい保育を実践し、「子どもが楽しく遊べていたか、満足していたか」を振り返りのポイントとしています。職員は常に子どもの思いを聴き、子どもの気持ちに寄り添った保育実践ができるよう努めています。調査日に3歳児が「プランボード」（遊びたいコーナーを選択）で迷っていた時、保育士は傍でそっと見守り、その子の表情を見極めて声掛けをし、子どもが自分から遊びを決定した時は、笑顔が溢れ、遊びのコーナーへ駆けていきました。また、「お迎えボード」を設置し、降園時間を子どものマークで表示し、子ども自身で時間を意識して、遊び・片づけ・身支度等、一日の見通しが持てるようにしています。当園の子どもたちは、保育士を「〇〇さん」、園長は「ママ先生」と呼び、先生という立場からの大人目線で子どもを見るのではない、「大人と子どものフラット

な関係」作りが成されています。「みんな違ってみんないい」をモットーに、「頑張らない保育」・「楽しい保育」を目指し、職員と子どもたちで保育を楽しんでいます。今回の利用者（保護者）アンケートでも「子どもの自主性を尊重」、「子ども第1に考えている」、「一人ひとりを丁寧にしている」、「子どもがやりたい事を実現」、「理念通りの保育を実践」等々の意見が多く寄せられ、満足の回答率94%と高い評価を得ています。

2. 【多彩な保育プログラム】

法人では「生きる力の土台を育む保育の柱」として、セカンドステップ（米国NPO開発プログラム）や、レインボータウン「まちをつくっちゃおうプロジェクト」を幼児教育に導入しています。また、海外（ネパール、フィリピン、スリランカ）の里子3名に支援を行い、多様な文化を学ぶ機会を提供しています。当園では、4歳児からセカンドステップに取組み、子どもたちのトラブルをパペット（指人形）で分かりやすく表現し、その時々之间的感情を子どもに問いながら、「相互の理解」・「問題解決」・「怒りの扱い」について学び、社会適応力を高めています。年長児は、レインボータウンで自分の「好きなこと、やりたいこと」を仕事にし、「達成感」や「役に立つ自分」を実感できるよう取組んでいます。調査日は、幼児クラスのプロジェクト保育「忍者」が始動し、至る所に「忍者」の影があり、子どもたちは、昨日作った「おだんご」の数が減り（19個から16個に）、巻物の手紙を発見し、「3個ないよー！」、「何か書いてある」、「もしかして忍者がいる？」等々、驚きと興奮でワクワクが止まりません。また、その後の活動（忍者に入門、修行、絵巻をゲット等）につながり、今後の展開が楽しみです。その他「ハッピーDAY」（親子の運動遊びの会）、「ハートフルDAY」（子どもの楽しい姿を披露）等に取り組み、楽しい保育を展開しています。

3. 【食育の推進】

給食を『ぶどうの愛情ごはん』と称し、食育に力を入れています。献立は、味覚の形成時期の子どもたちに「ダシの味が分かる子どもに育てたい」との思いから、和食を中心としたメニューです。ダシは、3種類（煮干し、鰹節、昆布）から丁寧に取っています。お米は、分つき米（秋田、山形）を採用しています。各年齢の食育活動に応じて、子どもたちに体験（食材に触れる、菜園活動で野菜の生長を感じる、クッキング等）を通し、食を身近に感じられるよう取組んでいます。今年度は「ぶどうのカレー」がメニューに加えられ好評であり、和をベースとした「カレー」仕立てで、野菜をダシで煮、トロミは玉葱を蒸してペースト状にしたものと米粉（小麦アレルギー児への配慮）&カレー粉で調理されています。クッキングでは、子どもたちが育てた夏野菜（トマト、ピーマン、ナス、キュウリ、バジル等）を基に、子どもたちの要望に応じてピザ作りをしています。年長児は親子でピザを作り、試食会を楽しんでいます。また、レインボータウンの取組で、子どもの要求「ケーキ屋さんをやりたい」に応じて、栄養士が子どもと一緒に対話しながら、計画・実行しています。その他、梅ジュース、味噌作り等、食文化を伝える取組もしています。今回の利用者（保護者）アンケートでも満足回答率85%という高い評価を得ています。

4. 【人材確保・育成・定着への取組】

事業経営上の課題として、人材の確保・育成・定着を挙げています。この課題は当園に限らず、保育園運営上に共通するものと思われます。園長は、一人ひとりの職員とのコミュニケーションを図ると共に、ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っています。ICT化を図り、残業要因となる事務作業は、勤務時間内で処理できるよう配慮しています。また、有給休暇が取りやすく、急な休みにも対応できるような職員体制に努め

ています。当園の定員は60名ですが、常勤18名、非常勤10名が配置され、支援が必要な子どもに1対1で寄り添う保育ができています。職員は「やりたい保育ができて楽しい！！」と笑顔です。子どもと職員はもとより、保護者とも「みんなで子育て」をモットーに、フラットでオープンな関係作りが成されています。今後も「ぶどうの保育は楽しい～働きたい」と思われるよう「ぶどうの木のブランディング化」に向けた取組に期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 ぶどうの実第2さぎぬま園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取組の感想》

開園して7年目を迎え、今回の受審は初めてとなります。

開園時0歳で入園した子どもたちの卒園を見送ることができて、保育のエビデンスとして自分たちの保育を振り返ると同時に、この度の第三者評価という客観的視点で見直しができたことは、私にとってもチームにとっても、大きな気づきと学びの機会になりました。

総合評価の中に、「毎日が楽しくてしかたない！」と子どもたちが輝ける保育を目指し、園をはじめ、職員の笑顔が輝く保育園です。という記述があり、とても嬉しくて励まされました。

「シアワセな未来を創るひとを育てる」という、ぶどうの木の存在意義を体現するのは、子どもを真ん中にして、職員や保護者みんなの輝く笑顔だと思います。

そして、一人ひとりの子どもや職員、保護者も含めて肯定的に受け止められ、ありのままに包み込まれたぶどうの実であり続けることが、何よりも大切な使命でもあると思っています。そのためには、決して現状に満足することなく、振り返り、改善して、さらにより良くしていこうという前向きなマインドとモチベーションを持ち続けて運営していきたいと思っています。

今回の受審を通して、改めて自園の課題や良いところを発見することができました。目からウロコのように深い気づきも得ることができました。そんな有意義なディスカッションの機会を与えていただいた評価者の方々に心より感謝申し上げます。

《評価後取組みたいこととして》

1. 小学校の連携の強化
2. 地域との交流
3. 総合的な人材育成のしくみと人事管理体制

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり